

世界にひとつだけの個性を  
自分で育てていってほしい

「よし……よし」4年前の北京五輪  
決勝戦の中継席での、感極まった涙声が  
今も耳に残る。自称バットを持った鬼  
女子ソフトボール元日本代表監督・宇津  
木妙子さんの、魂の絶叫。

「最近、教え子たちに『いくつになっ  
たんだ？』って聞くと、40とか言われて。  
そうすると、ああ自分も年を取ったんだ  
と思いますよね。でも、大人になれてい  
るかと訊かれると、どうなんだろうか」

中学生で競技を始め、実業団での選手  
生活を経て、28歳の若さでジュニア日本  
代表チームのコーチに就任。パイオニア  
ならではの道なき道をひた走ってきた。

「何でお前が『辞退しろ』って、ずい  
ぶん叩かれましたよ。当時はコーチも監  
督も男性。女性が指導者になるなんて考  
えられない時代で、とくに『世界』と名  
の付く大会は全部、男性主導でした。で  
も、新しいことをやってみたかった」

激しい反発。しかし「嫌な顔をされる  
のには慣れていた」と宇津木さん。

「選手のと看、監督に『わかったら返事  
をしなさい』と言われて、わからなかったか  
ら返事をしなかったら『なんで返事をし  
ないんだ！』って殴られて。大人って勝  
手だなあ、と思ったのよ。ずっと叱られ  
る人間だった。おっちょこちょいだし、  
出しやばりだし、そういうのは男に嫌わ  
れるでしょ？先輩たちは『わかったらフ  
リをするんだよ』と言ったけど、私はそ  
んなの大っ嫌い。正直に生きたっていい  
じゃない、自分は自分なんだからって」  
チームは見事に優勝を飾り、自信を得  
た宇津木さんは、さらなる次の道に力強  
く踏み込んでいく。心がけたのは、「一に  
も二にも『選手を大事にする』こと」。

「チームでも会社でも何でも、現場がな  
ければ成り立たない。ただそのとき、遠  
慮したり気を遣うだけじゃなくて、自分  
をしつかり出すこと。『私はこうやるん  
だ』と、思いだけでなく考えをしつかり  
伝えれば、選手は必ずついてきてくれる。  
彼女は常にこちらを見ているから  
ね。負けたら、責任は監督にあるのは明  
確。『今日はよくなかった』『あそこで  
言いすぎた』と、日記を書くときはそん  
なことばかりでした。でも、朝になれば  
『さあ、今日も一日頑張ろう』と、一日  
一日にメリハリをつけていく。これは、  
選手時代からずっと変わらないことです」  
宇津木さんの薫陶を受けて育った選手  
たちは、今、それぞれのチームで指導者  
となつている。自分と同じ状況で悩み、  
苦しみ、奮闘する姿を見て、自分のやっ  
てきた道程を再確認しているという。

## すべての責任を引き受ける覚悟を。 大人は常に「背中」を見られている

「監督としての苦勞は、大人の苦勞その  
もの。教え子たちも、以前は『私は監督  
みたいに叱らない』とか言っていたけど、  
いざやってみるとやっぱり『挨拶は大事  
なんだ』『チームは一人じゃないんだ』  
とわかってくるみたい。壁にぶつかって  
失敗して……私もそうだった。彼女らが  
今、同じことを言っているのを聞くと、  
ああ、成長したんだな、こうやって私も  
大人になってきたんだなって思うの。だ  
から、選手を育ててきたんじゃない。選  
手に育てられたようなものですよ」

「監督としての苦勞は、大人の苦勞その  
もの。教え子たちも、以前は『私は監督  
みたいに叱らない』とか言っていたけど、  
いざやってみるとやっぱり『挨拶は大事  
なんだ』『チームは一人じゃないんだ』  
とわかってくるみたい。壁にぶつかって  
失敗して……私もそうだった。彼女らが  
今、同じことを言っているのを聞くと、  
ああ、成長したんだな、こうやって私も  
大人になってきたんだなって思うの。だ  
から、選手を育ててきたんじゃない。選  
手に育てられたようなものですよ」

現在も毎朝ランニングを行い、腹筋  
背筋のトレーニングも欠かさない。それ  
もこれも、グラウンドに立ってノックし  
続けるという、自らに課した「大人の責  
任」ゆえだ。オリンピックという檜舞台  
を失ったソフトボールの未来は、震災後、  
スポーツを通じての社会支援のあり方は、  
周囲の目は、今も悩みながら動き続ける  
その背中に注がれている。だから思う。  
「バットを持って死にたい」と。  
「これが宇津木妙子流のやり方。58年、  
やってきたんですよ。周囲から頼られて  
はじめて大人は強くなるけど、だからと  
いって格好をつけるんじゃないって、喜怒哀  
楽を見せ、素直な自分を出しきるこ  
とが大事。わがままなせに、こんな自  
分と出会えてよかったと思ってる。私  
自分のこと大好きなのよ(笑)。こんな  
生き方している人、他にいないもん。つ  
くづく、幸せな人生だと思えますね」

## わかままな自分に出会えてよかった 宇津木妙子さん

[NPO法人ソフトボール・ドリーム理事長]



### Taeko Utsugi

1953年、埼玉県生まれ。日本ソフト  
ボールリーグ女子1部のユニチカ重井  
で活躍。現役引退後、ジュニア日本代  
表コーチ、日立高崎(現・ルネサス高  
崎)の監督を歴任し、'97年日本代表  
監督に就任。世界選手権、シドニー、  
アテネの五輪でメダルを獲得し、国際  
ソフトボール連盟殿堂入りを果たす。  
「ソフトボール観」ほか著書多数。

[www.aonet.atnify.com/nposbd/](http://www.aonet.atnify.com/nposbd/)